平成２８年度　基盤研究（Ｓ）　審査結果の所見

研究課題名	集合行動の認知・神経・生態学的基盤の解明
研究代表者	亀田　達也（東京大学・大学院人文社会研究科・教授）※平成 28 年 6 月末現在
研究期間	平成２８年度～平成３２年度
審査結果の所見	野心的で挑戦的な研究であり、期待される成果が得られた場合には国際的にも高い波及効果が見込める研究である。人間の集合行動をアリやカラスの集合行動とどのように比較して、どのように説明するのか、現段階での計画の曖昧性について懸念される点もあったが、応募者が従来示してきた高い研究遂行能力から、質の高い研究成果が十分に期待できる。国際的にも社会心理学分野の先端を切り開く可能性を持つであり、基盤研究（Ｓ）として採択すべき課題であると判断した。